

多国間主義同盟閣僚級会合「我々の共有の課題である持続可能な食料システム：気候変動、保健、環境、不平等との闘い」における副大臣ビデオメッセージ

1 新型コロナ拡大による諸課題

ル・ドリアン・フランス欧州・外務大臣閣下、マース・ドイツ外務大臣閣下、御出席の皆様、

現在、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、栄養不良の深刻化や飢餓人口の増加が進み、持続可能な食料システムの強靱化の重要性が指摘される中、本日、これらの課題について多国間主義同盟の会合が開催されることを歓迎します。

2 課題に向けた取組

世界では10人に1人が飢えや低栄養に苦しむ一方、3人に1人が過体重や肥満の状態にあるといわれます。成長を妨げる低栄養と、生活習慣病等を引き起こす過栄養を合わせた「栄養不良の二重負荷」は世界全体が抱える課題であり、先進国・途上国を問わず、栄養問題に取り組む必要があります。

栄養改善には、保健や農業だけでなく、環境、教育、ジェンダーなど関連する分野を含む、社会全体での包括的なアプローチが必要です。また、政府のみならず民間企業、市民社会、アカデミアなど幅広い関係者が協力して取り組むことが重要です。これは戦後日本の栄養改善の経験が示すところです。

3 東京栄養サミット2021について

こうした観点から、日本政府は、世界の栄養改善に向けた世界的な取組を前に進めるため、12月7日及び8日に東京栄養サミット2021を開催します。

これは、オリンピック・パラリンピックの開催国がリードする、「成長のための栄養（N4G）」と呼ばれるイニシアチブです。

このサミットでは、「栄養不良の二重負荷」の視点から、先進国・途上国共通の課題として栄養問題を議論します。また、新型コロナウイルス感染症、国連食料システムサミット、気候変動に関する COP26 という動きも踏まえた議論を行います。

主なテーマは、栄養のユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）への統合、安全で持続可能かつ健康的な食料システムの構築、脆弱な状況下における栄養不良対策の促進です。

最も重要なことは、各ステークホルダーが栄養改善に向けた自身の野心的なコミットメントを表明することです。皆様のサミット参加と栄養改善に向けた資金及び政策コミットメントの発表を期待しています。

4 結語

日本政府は、東京栄養サミットやその他の努力を通じて、人間の安全保障の理念に立ち、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成を含めた、「誰一人の健康も取り残さない」取組を進める決意であり、これこそが多国間主義同盟の精神に合致するものと確信しています。御清聴ありがとうございました。